

医薬保健学域 医学類

【授与する学位】学士（医学）

大学（大学院）の目的
金沢大学は、教育、研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため、総合大学として教育研究活動等を行い、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

学類（研究科）の教育研究上の目的
医薬保健学域は、高齢化・少子化や疾病構造の変化を背景に、日常生活の質〔Quality of Life(QOL)〕を重視した患者本位の全人的医療の提供のため、関連する医学、保健学及び薬学の分野が相互に協力して、統合的な医療教育を行い、人間性を重視し、総合的な能力を有する高度医療人及び研究者を養成することを目的とする。医学類は、早期体験実習(アーリー・エクスポージャー)、基礎配属での医学研究体験、コア・カリキュラム対応統合型教育、小人数チュートリアル教育、地域医療臨床実習及び診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)などを実施するとともに、全国共用試験Computer-based Test(CBT)や客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination ; OSCE)で臨床前教育の充実を図り、幅広い教養、豊かな感性、人間への深い洞察力及び問題解決・コミュニケーション能力を備え、全人的医療ができる能力を身につける教育を行い、人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者を養成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー (DP)	カリキュラム・ポリシー (CP)	アドミッション・ポリシー (AP)
【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】	【教育課程編成に関する基本的考え方】	【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】
医学類の教育理念は「人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより、世界の医療、健康、福祉及び医学研究に貢献する」である。 学士（医学）の学位を授与される学生は、以下の学修成果を上げた者とする。	医学類の教育理念は「人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより、世界の医療、健康、福祉及び医学研究に貢献する」であり、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、全学共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・ツリーやナンバリングを用いてその体系的な構成を明示する。	医学類は、学校教育法に基づく大学における医学の正規の課程に相当し、卒業者は医師国家試験の受験資格を与えられ、合格することによって医師としての資格を得ることになる。 その上で、医学類では、社会の変化に適切につつ、多様かつ高度な医療ニーズに応え、プロフェッショナルな医師として成長・発展することが期待できる人材を受け入れる。
【学生が身に付けるべき資質・能力】	【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】	【求める人材】
学修到達目標 A. 知識及び技能 ・基礎医学・社会医学領域における専門的な知識を身につける。 ・臨床医学領域について専門的な知識を身につける。 ・診断及び治療の基本的技能を修得する。 ・自ら必要な課題を発見し、自己学修によってそれを解決する姿勢を身につける。 B. 研究心 ・科学的根拠に基づく医療の評価と検証の必要性を理解する。 ・探求心・研究心をもって生涯にわたる継続的学修を行うことができる。 ・科学的研究の最新情報を収集・実践できる能力を持っている。 C. 倫理観 ・患者の自己決定権の重要性を理解する。 ・自分自身の行動を省察し律することができる。 ・医師としての社会的責任を理解する。 ・価値観の多様性を理解する。 ・幅広い教養を背景に、患者本位の医療を実践出来る。 D. 地域医療 ・地域における医療・保健・福祉などの連携を理解する。 ・医療の経済的側面を理解する。 E. コミュニケーション ・患者・家族等と良好な関係を築く。 ・他の医療従事者との連携を重視する。 ・強い責任感、指導力、意思疎通能力をもって、効率よく問題解決に当たる事が出来る。 ・英語による国際的なコミュニケーション能力を身につける。 F. 危険・事故の予防 ・医療従事者の健康管理の重要性を理解している。 ・医療事故に遭遇した際の対処法について理解している。 ・医療過誤に関連した医師の責任と罰則規定を理解している	1. 教育内容 1年次には共通教育科目および専門科目基礎、2年次以降は基礎医学および臨床医学基礎、4年次以降は診断学実習を経て、医療機関での診療参加型臨床実習を実施する。 2. 教育方法 1年次には、共通教育科目の履修を通して幅広い教養の修得を行うとともに、早期から医師としてのプロフェッショナルリズムを惹起させるため、「医学入門」「早期医療体験」等の医学の導入カリキュラムである基礎科目を実施する。さらに、医学的課題の解決に取り組むために必要な科学的理論と方法論を理解し、生涯にわたる自己学修の能力および習慣を身に付けるため、課題探究型プログラム「基礎医学チュートリアル」等のアクティブラーニングによる学修法を取り入れる。 なお、世界的に活躍できる医療者・医学研究者の育成を図るため、夏季研修期間を中心として提供される「国際交流プログラム」や選択臨床実習で海外での実習体験等のカリキュラムも、全学年にわたり、各年次のレベルに合わせて取り入れていく。 2年次以降は、科学的根拠に基づく医療を行なえる能力を身に付けさせるため、基礎医学および臨床医学を関連付けた統合カリキュラムを実践する。同時に、医学研究を担うために適切な基礎となる知識、技能および態度を修得し、科学的探究心を涵養するため、「基礎研究室配属」、「医学研究特設プログラム」等を提供する。 4年次以降は、「基本的臨床手技実習」、「臨床医学チュートリアル」やケーススタディを通して実際の臨床に段階的に関わらせて患者中心の医療および保健活動を実践できる基盤を構築する。	明確な目的意識と強い使命感を有し、知識や技能の習得能力、論理的及び倫理的な思考力、協調性を有する人材を求めて選抜を行う。 なお、外国人留学生については、医師国家試験が日本語で行われる関係上、相応の日本語能力を求める。
	【学修成果の評価】	【選抜の基本方針】
	主に各科目で課す筆記試験や共用試験CBT注1で、技能については、共用試験OSCE注2で、態度については、早期医療体験（アーリーエクスポージャー）や基本的基礎配属（基礎研究室配属）での観察によって評価する。 共用試験CBT・OSCE合格後、実践的な臨床能力の修得のため、「診療参加型臨床実習」の機会を提供する。また、地域の医療に貢献する医師としての基礎を形成するため「地域医療実習」を用意し、医療行政を理解させる。 臨床における技能の評価は、6年次のPCC-OSCE注3で、知識の評価は、2回の統合臨床試験で、態度の評価は、臨床実習のポートフォリオ評価で行う。 注1:Computer Based Testing 注2:Objective Structured Clinical Examination 注3:Post Clinical Clerkship - Objective Structured Clinical Examination	選抜の方法としては筆記試験、口述試験等を行う。医学では幅広い正確な知識とそれに基づいた合理的な思考力が必要とされるため、高等学校等で学ぶ教科全般について高いレベルの基礎的な知識と、単なる知識ではない理解力・思考力を全教科にわたり、偏りなく身につけておくことが望まれるが、特に理数系科目に重点を置き、筆記試験においてその能力を測る。また、自己表現能力、課外活動（ボランティア、部活、生徒会活動等）の経験などを通じて得られた多様な人々と協働して学ぶ態度（協働性）、やり遂げる力（継続力）等を口述試験で評価する。 加えて、将来、石川県並びに富山県の地域医療をリードする指導的人材養成を目的とする学校推薦型選抜の特別枠では、石川県又は富山県の地域医療に貢献する強い意志を持った者を対象とする。 多様な専門能力を有する大学卒業者に医学・医療への進路を開く第2年次編入学（学士入学制度）では、外国語及び専門知識の学力に加え、口述試験での資質適性等を評価する。
		【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】